

創業60年記念

わたしが読んだ童心社の本

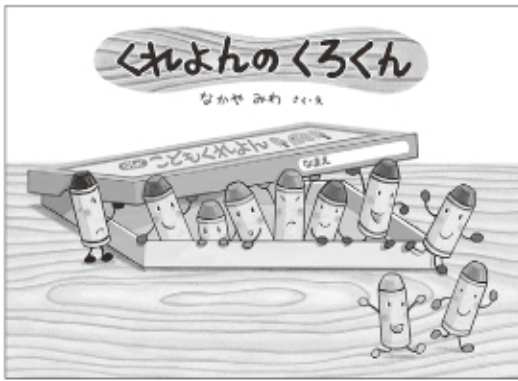
個性豊かな

クレヨンたちが

紡ぐ身近な物語

佐々木由美子

ささき ゆみこ／東京未来大学こども心理学部教授。幼稚園教諭を経て、子どもと物語、絵本や紙芝居、保育者の育ちについて研究。編著書に「エピソードから楽しく学ぼう環境指導法」(創成社)など。



なかやみわ/さく・え

「ねえ、ぼくは、ぼくは、どこを かけばいいの?」クレヨンのくろくんの問いかけに、ほかのクレヨンたちの答えは容赦ありません。「くろくんは、まにあってるよ」「きれいに かいたえを くろくんに されたら、たまらないよ……」「子どもたちの遊びの世界は意外とシビアです。「いれて」といっても、にへもなく「ダメ」と断られることも珍しくありません。もちろんダメにはダメの理由があり、それだけが自分のこだわりやイメージをもって遊んでいるからなのですが、勇気をだして声をかけたのに断られるのは、やはりショックです。ましてやくろくんのように否定されたら……。「なんで ぼくって、こんな いろんなだろう……」みんなが楽しそうにお絵がきするのを見ながら、一人膝を抱えて悩むくろくんの姿に胸が痛みます。

的なキャラクターたちがむくむくと勝手に動きだして、物語を紡いだかのような自由で伸びやかな作品世界が魅力です。くろくんたちの体は色紙で作り、背景を描いた後に貼りこんでいるとのこと。クレヨンたちが生き生きとみえるのも、こうした細やかな配慮に支えられているからでしょう。くるくる変わる表情からも心の動きが伝わってきます。子どもたちにとっても、仲間にいれてもらえないくろくんや、描くのにも夢中になりすぎてケンカになってしまっクレヨンたちの姿は他人事には思えないようです。そして、この作品のもう一つの醍醐味は、黒一色に塗りつぶされた画面から、見開き一面に色鮮やかな火花が出現する場面。ペーシをめくったときの子どもたちが驚く顔が、読み手にとってはやみつきになります。子どもたちも、どうなることがと不安げに見守っていたのでしょう。「くろくん、さっきはごめんよ」「へうって、すこいね」ほかのクレヨンたちからの賞讃の言葉に、思わずにっこりです。一人一人が大切な存在であることが、すんなりと心に染みいつてきます。

子どもたちにとって、身近な存在であるクレヨンたちが繰り広げる物語。絵本を見た後、お絵がきをしたくなる子どもが多いのもうなすけます。クレヨンで絵を描きながら物語の続きを紡いでいるのを楽しもう。

さて、今年新たに「くろくん」とちびさくくろくんがシリーズ仲間入りしました。一冊ごとにくろくんも成長しているようです。くろくんのお兄さんぶりも、ぜひ楽しんでください。